世界婦人

●本誌は世界主義を標榜して婦人解放を主眼とす

●女子大に讀むべく男子盛んに讀まざる可からず

女の癖に

安部磯雄

『女の癖に』といふ一言。是れ男子が屢女子を輕蔑する爲に用ゆる所の語ではないか。想ふに女性に加へられたる侮辱の言語で、これに勝るものが他にあるだらうか。此忌はしき皮肉なる侮辱を浴せかけられたる時、大概の婦人は躊躇し、赤面し、畏縮するのである。然れども男子に濫用せらるゝ此利器に果して幾何の力があるのだらうか

世には婦人のなしてならぬことがあると見へる。男子がこれを爲すのは差支ないが、女子がこれを爲せば、其が生意氣に見へる。其處で『女の癖に』といふ失敬な語が男子の口より出ることになる。然し世に女子のなしてならぬことがあるかどうか。これが先決の問題ではあるまいか。男女の間には多少分業が行はれて居るには相違ないが、此分業なるものは時勢と共に常に變遷して行くものである。昔時婦人の專有であつた仕事も今は多く男子の手によりて爲されて居るではないか。これと同時に今日の女子は殆んど何事でも男子と同樣の仕事を爲すことが出來る。小學校の教師は男子よりも女子の方が善い位であるが、今後中學校の教師に女子をも採用する日が來るであらう。醫術に於ても小兒科や婦人科は女醫の方が都合が善いに相違ない。グラスゴーといふ都市では市の衞生委員に婦人を採用して居る。婦人の巡査を置いて居る國もあるといふ位だから、男女の間に判然たる職業の區別を立てんとするのは間違である

婦人の體育に就きても吾人は愼重に考へねばならぬ。下駄を穿き、大なる帶を締め、ゾロ〳〵した衣服を着けて街上を歩行して居る樣では、婦人は到底立派なる健康を得ることは出來ない。テニスや自轉車の如き活潑なる遊戯をなして身體の健康を謀るは當然である。若し特別に柔道、擊劍、薙刀などを稽古する婦人あらば、吾人は決してこれを生意氣なりと思ふことは出來ない。腕力の強弱は必ずしも婦人に取りて重要なる問題ではないかも知れぬが、常に健康なる身體を有し、輕快なる動作を爲し得ることは婦人に取りて大切なることである。或時一人の女學生が電車に飛乘りしたのを見て、車掌は『女の癖に』と嘲つたそうだが、活潑なる女子が電車の飛乘を爲すに何の不思議があるか。必要があらば婦人と雖も小河を飛び越へたり、高き所より飛び降りたりせねばならぬ。吾人は婦人に何時も此の如きをせよといふのではないが場合によりては之を爲し得るだけの元氣と體格がなくてはならぬ。人手を借らねば汽車の昇降も出來ぬ樣な婦人が何の役に立つものか。女學生の飛乘りに驚く樣なことでは男子の意氣地なさ加減も推察することが出來る

男子は奇妙な考へを以て女子を見て居る彼等の理想とする婦人は身體纖弱、顏色蒼白、動作不活潑、恰も病人か老人かの如きものらしい。彼の清國婦人が兩足を緊縮して、人手を借らねば歩行することの出來ぬといふが如きは、我國の男子にも理想の婦人であるに相違ない。若し果して然らば『女の癖に』といふ一言は啻に侮辱を意味するのみでなく、亦壓制といふことを意味するのである。婦人をして男子の職業を奪はしめない爲に知力に於て男子を凌駕せしめない爲に健康なる身體を有し輕快なる動作を爲さしめないために、男子は常に『女の癖に』といふ鐵鎖を以て彼を縛して置くのである。清國婦人の足の小さきも、我國婦人の纖弱なるも此鐵鎖のあるがためではないか。吾人は我國女子の爲に先づ此鐵鎖を粉碎したいと思ふ

最初の婦人代議士

（フインランドに於ける）

マリヤ、レーン（社會民主黨）

ヘレナ、ウヰステルマーク（瑞典黨）

ミンナ、シル、ランパ（社會主義者）

ヒルダ・キアキコスキー（フインランド老年黨）

ドクトル、マイツキイ、フリイベルグ（フインランド青年黨）

所感

志　牢

▲社會黨と社會主義

徒らに律する勿れ、社會黨豈に社會主義者に必らずしも社會黨員たる可けんや。然るに世に見識ありと稱せらるゝ人物にして、社會主義を罵りて、社會主義其ものを貶せるかの如く自から誇り面なるあり。某々氏の耶蘇教嫌ひを揭げて、以てキリスト主義と社會主義とは根本より相反目するものなりと斷ずる聖人あり然れども之を斷ずる者、唯他をして自己自身の内容を識らしむるのみ、唯其れのみ。主義は精神なり、方法なり、原理なり、能にして體にあらず。意識の統一は人格となり、人格は理想を懷き、理想は信念を包みて主義を採る茲に主義とは單にイズムにあらず、イズムを有するスピリットをも含む。社會主義者必らずしも政黨を結ばざる可からずや、否。斯の故に社會黨員たらずして社會主義者たるを得るは勿論なり。然れども政黨を作るは、權力を否認せる無政府の境界を目的とするの意志あるに出でたらずやは未だ悉知せず。社會主義を絶滅せんが爲めに、社會黨を罵り、傷け、之を撲殺するも何の得る處ある事なし。更に眞乎の社會主義を發展せしめんと唱へて、以て社會黨を難ずるは、時に偏屈と野心の致す處にあらざる歟。

▲教會と基督教

放恣なる毛嫌を避けよ、教會豈に基督教ならんや、信者豈にキリストたる可けんや。基督教會豈に必らずしも非基督教會たらずとせんや。好むも嫌ふも勝手なり、信ずると否とは自由なり。然れども教會と基督教とを同一視し、信者とキリストを等觀するに至りては全々非なり。世には基督教會を難じて以て、基督教を打てりと思惟する者あり。某々氏を論ずるも、未だ彼れキリストに觸るゝ能はず、組合教會を滅するも、キリストは敢て亡びず、要するに、祭司の基督教、保羅の基督教、雅各の基督教、其他教師、神學者等の基督教は未だ必らずしもキリストの基督教にあらざるなり。之を混同する者は未だ談ずるに足らず。新約聖書を基督教の典經なりと做す可らず、唯其の中に基督教が藏するのみ、況んや舊約聖書に於てをや。夫れ經典は宗教にあらず、只宗教の記錄のみ。豈に神の言葉と做す可けんや、畢竟するに神を信ずと言ひて、人は各々其偶像に事ふる者なり、而かも偶像は偶像に外ならず。偶像を拜する現代の教會者、何ぞ神を知る可けんや。キリストは遂に彼等の爲めに汚がし盡されたるにあらずや。

涙

まづく子

雨の日を母の御墓に手向して
歸るさに聞く杜鵑一聲

世を呪ふ心の奥の若人は
倦に泣きつゝ戀に泣きつゝ

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

男女教員諸君に呈す

遠藤友四郎

曩日某新聞紙上に「教育界の危機」と題して、政府當局者が社會主義者たる教員若しくは其の傾向ある者に對し、嚴格なる懲戒處分を行はんとするの状勢を指摘して「之れ邦家の前途を誤らんとする教育界の一危機」なりと論叫された。其論法は元より自家撞着のふしがあり、所謂懲戒處分に對しては何ものを主張したのかが曖昧であつた。吾等は今其の所論を批評する譯ではない、唯だ之れに就て聊か考へた處を以て、我が男女の教員諸君に直言を呈せんとす。

豫ねて拔け目のある筈なく、政府當局者は何時か御内訓にでもなつたものらしい。

過般本誌の購讀者にして教員なる一婦人は本社に對して俄然「お斷り」を寄越された。之れ恐らくは其筋の干渉の結果と思はれる。今其端書を左に掲げむ。

前略御免被下度候、扨先日世界婦人御送付下され度と御依頼申上候へしが、此度止むを得ぬ事情より御見合せ度と存じ候まゝ、何卒此後一部も御送り下さらぬやうかたく〳〵御願ひ申上候、先は要事のみかしく。

本誌世界婦人は元より主義あつて立てるものである、其主義とは言はずもがな一言以て之を蔽へば、曰はく世界主義！而して吾等は黨派もなく、宗派もなく、而かも因はれたる一非世界的人間・特に婦人を解放し、人の上の「權威」を退絶し、拒否し人をして其本位に坐せしめんとはするのである。

斯くして起てる我が世界婦人は、元より現代社會の大勢、特に其の代表者否中樞者、即ち神ならずして人の上に權を有つ者一の精神、制度、團體、階級の反抗を蒙るべきは豫じめ期せる處である。

而して社會主義的傾向ある者を免黜せんとする政下に生を享くる教育者が、其席を離れて茲に職を失ひ、パンを得るに至難至險なる無情の社會に追はれんよりは、寧ろ一枚の世界婦人の購讀を謝絶する方が如何に安全なるかは誰にも解る話である。

惟ふに右「お斷り」になつた本人は政府の内訓＝干渉＝拘束＝壓制に接して、「止むを得ぬ事情」となり、五ヶ月分の代金を拂込んでありながら、唐突「見合せ度」なりし僅に「此後は一部も御送り下さらぬやう」との御願ひの條を迫られた次第であらう。吾等は同婦人に對して切なる同情を寄するのである。併ても憐れにも淺ましき事ではないか。

翻へつて思ふ、實は斯の現象、事實なるものは毫も奇怪でない、寧ろ奇怪と云ふこそ奇怪である。之れ決して「教育界の危機」でも何でもない。

顧ひ見よ、大日本「國」の教育界に於て斯の現象が何で不思議であらふ、政府は當然の事を爲して居るに外ならないではないか。「國家」内にあつて「世界主義」何うして容れて置く事が出來やう。

「國家」とは「政府」のある者、「政府」が無くば「國家」は無い、土地と富と其他平等の人類の社會が在るのみ、其處には「國家」といふ者は存在しない。

「國家」といふもの、本質は「政府」である。「國家」ある以上は、其處に「世界」は否定されてゐる。

吾等が曾て尊敬してゐつた内村鑑三氏は、基督教なりとして「帝國主義可なり」云々一と言はれた事がある。併し帝國主義と世界主義とは相容れないものではないか、「帝國主義」は既に前提に於て仁義博愛等の世界同胞主義の倫理的精神を否認してゐるのである。

故に吾等は宣言する。「世界主義」を持する本誌は「國家主義者」の敵である、從つて本誌は「一國民」には嫉觀を購ひ、「國民」を作らんとする者には迫害を享けるであらう。嗚呼「國民」の眞意義よ、汝は何故に且つ何時まで「人類」を醜なさざる。

吾等は更に極言する。「干渉、迫害を怖る、「國民」＝非人間たらんとする者」は本誌を讀む勿れと、見よ日ならず神は天降りて「政府」てふ怪物を審き玉はん。

吾等は、社會主義、無政府主義等の世界主義を有する者を迫害せんとする權力階級あるを怪しまない、同時に彼れは遂に時と共に滅び往くもの、滅ぼさるべきものなるを信じて疑はない。而して之れに壓制せられて易すく凹まざるを得ない境遇に居る、世界大多數の一員たる吾等は哀れなるものである。

吾等は敢て男女の教員諸君に告げざるを得ない。

日本國の教育は「人」を教育するのでは無い「國民」を製造するのである。其の方針に依て仕立られたる全國の教員諸氏は、元より國民的教育を享けられたる「有資格者」である。

男女の教員諸君！諸君は人類の道徳を教ふる能はずして、國家の道徳を強ひねばならぬ。正義、人道、博愛、同胞とは言ふもの、开は唯だ言ふのみで實は僞である。諸君！仰いで頭上を見よ、諸君は何を以て其の服從の對象となしつゝある。諸君は知らねばならぬ。

諸君が教養し、助育しつゝある「國民」は「人間」である。諸君が彼等をして「國民」たらしめんとするにも拘らず「自然」てふものゝ手は之れを允許さじ、彼等は「神」にまで達せんとし、「人間」たらんとするのである。諸君が「國民」を作らんとして誠實に、眞摯に、其教鞭を採りつゝあるにも不拘、軈て「時」なる神に導かれて彼等が神の子なる人間の面影に憧るゝ時、彼等は自身に「國民」てふ醜き衣を被たるを自覺して、其自覺の度に順ひ、彼等は「苦悶」の毒酒に惱まざるを得ないのだ。

諸君よ、諸君は知らねばならぬ「時」は遷りて「智」は來れり、「國民」は「國家」を脱して「世界」に入らんとし「權力」を否定して「自然」に歸せんとするのである。政府、専王、制限、不自由のある處、社會的生活の眞相に觸れたる青年男女の煩悶は、教員諸君が與かつて多少の責めを免かれ得ない。

嗟、教員諸君、諸君は既に、人たる自覺に基づきて其の行動を採らんとすれば、諸君の上には權力ありて諸君を制御するのである。而して今々世界主義を取るなる一片の我が世界婦人の購讀を妨げらるるが如き、固より當然の事態である。

時事

足尾事件の豫審決定

南助松氏外百八十名に對する豫審は、本月五日宇都宮地方裁判所に於て終結を告げ、南助松、長岡鶴藏は兇徒聚集罪の巨魁とし、井守信馬、林小太郎、山本利十郎等は教唆罪とし、大西才一、鶴岳丑之助、中村市太郎、山本小三郎、市見利一、久保文藏の六名は煽動助勢とし、吉新喜一郎を放火罪として重罪公判に附し、この外二十八名を輕罪に、五十二名を罰金處分として公判廷に廻し、八十名を免訴せり。尚南助松氏外十名は此決定送達の日より三日間以内に上告し得る筈なり。

別子の騷動

足尾事件ありてより茲に四ヶ月、又々別子銅山の騷動あり。世人の多くは勞働者側の行動を暴動と云ひ、資本家が爲せる處の暴々動なるを唱ふる者なし。諸新聞紙の如きは元より然り、或は資本家を罵るが如くにして實は之に媚び、軍隊を以てしたる所謂鎭壓をして之を「お芽出度さ」事なりと吹聽す。嗚、奸惡なる世なる哉、不屆なる社會なる哉。

密航婦續々箱詰の女人

前號の本誌には、社會暗黒面の研究と題して、密航婦誘拐の細しき事情を報道せり。今更ならぬ密航婦の續々たる、而かも日を追ふて其數を加ふる有樣にして、箱詰は、誘拐者等の苦心する處なるべく、密航婦人等の生命がけの隘路なるべし。斯くも苦心し、斯くも生命がけにて海外に密航する日本婦人は悉く賣淫業者となるの事實を想へば、寒心と言はんか、何と言はんか、道徳家、宗教家なるものは、婦人に節なしと言ひ、罪兒なりと罵れども、餘あらしめずして、罪兒たらざるを得ざらしむるものはそも〳〵何ものぞ。生れたる人間は皆生活せんとするものなり。而して生活せんとしてもする能はざる時に臨んでや職の可否を究むる能はざるは當然ならずや。吾人は密航婦、淫賣婦の繁殖するを憂へずして、繁殖せしむる人生社會の欠陷を憂へて休まざるものなり

二老婆の慘死

何れも東都の話にして、一は空家の押入れの中より發見せる、古葛籠入りの死體の小山きみ（八十二）は留守宅、杯盤狼藉の中に倒死しゐたる立間いけ（七十）にして共に自己の惡しき根性の爲めなるが如し。而して前者は養女夫婦の手に、後者は養女個人の手に何れも絞殺せられしに似たり。顧ふに人情の極まる處、自殺するにあらずんば則ち他殺、事茲に至るまでには、大概は生活難に惱める者なり其場合は、殺すものは弱者にして、殺さるゝ者は強者の地位を有てりし者と云ふべし。小山きみは淫慾恣なる養母としての強者にして立間いけは金力ある亂酒の養母として強者なり。彼等に對する弱者たりし養女及養夫婦なるもの其強者に對して取るべき手段は殺害の外、術なき迄に弱者たりしを見て、吾人は強者の慘死を哀れむと同時に彼等弱者を哀れむものなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世界婦人の新教訓（一面の續）

「一」（女子解放運動の新曙光　リアリズムに一轉を加ふ）

世界に於ける新時代の休徴を求むれば女子の覺醒は確かに其一つである。男女の社會的不平等の根底には、如何に經濟的原因か其深所に潜んでいるか、之れ女子解放の大業を完成せんが爲めには、女子の自覺必ずや一度が此の所に到らなければならぬ。然し乍ら先づ其前列に見えるものは政治である。茲に於てか勞働者が其解放と平等とを求めて、先づ議會に走せたる如く、女子も亦其解放と平等とを望んで議會に進軍する。女子選擧權の一語が覺醒せる女子の合言葉となつたのは自然の勢であらう。

英國の女子選擧權運動者が、百年斷崖を嚙んで撓ゆまざる海濤の如き堅忍と勇氣と猛烈を以つて此旗幟の下に戰つて居ることは屢々傳へられた所である、彼等は幾度かウエストミンスターに下院を襲ひ、幾度か蝙蝠傘を揮つて騎馬の警官と爭ひ、更に幾度か之に對する世間の批難と鬪つた。予は英國の女子運動が、少くとも既に見榮や、滑稽や、世間の同情や温和順從等の美名に戀々たる改革者流の域を超えて、與へられずんば取らんとするの態度を宣明して居る一事を喜ぶ者である。然し乍ら斯くの如くにして尚は英國の女子は選擧權を得ることが出來ぬのである。

此時に當つて更に困難なる境涯にあるフインランドの女子が、健鬪苦戰に依て立ち所に十九名の女子議員を國民議會に送つたことが、世界の女子運動の上に一大教訓として傳へられ、此運動を導く新たなる明星の如く新時代の地平線上に輝くのは無理からぬ所である。選擧權を得た者は必ずしも彼等ばかりでない。アメリカの婦人も得た。州の選擧に於て濠州の婦人も得た。ニユジランドの婦人も亦之を獲た然し乍らフインランドの女子の如く、地球の自由の上に平蜘蛛の如く匍匐つて居るザーの巨頭に一擊を喰らはして獲たものは何所にもない。治安警察法の改正を求めて貴族階級の反擊に逢ひたる日本の姉妹よ、予がフインランド婦人の勇氣を讃たふるもこは強ち我同胞の温良從順の淑徳を辱めんが爲めではない。

「二」（彼等は如何に鬪ひしか　其價は勞働と流血なり）

フインランドに於ける女子運動は固より遠い昔から始つた。併し乍ら政治的權利に向て最初の團結の成立したのは、フイニツシユ、ウイメンス、アツソシエシヨンであつて、一八八四年の事である。數年の間協會は徐ろに且つ堅實なる運動をなせしが、一八九八年全國をして人種と男女の差別を忘れて手を握らしむ可き一時が來た。之れ露帝ニコラス二世がフインランド人の憲法に對する忠實の誓を破つて、其自由を粉碎せんと企てた事である。男子も女子もフインランドの存在の爲に絕望の死力を以て奮鬪した。そして此間に於てフインランドの女子が如何に其父や、其兄弟や、其良人におとらぬ働きをなせしかは、最初の國會議員當選者の一人たるドクトル、マイキー、フリーベルグ孃の言葉で明かである。

「吾等は鼓吹に要する運動費の大部分を募集し、其口をおさへられ若しくは全く發行を禁止せられた新聞紙に代る可く小冊子を撒き、態度を曖昧にする弱い兄弟の勇氣を支へました、然して之を爲す中吾等は禁錮とシベリヤ流竄の絕間なき危險を冒し、且つ一人ならず、彼等は自由に對する勇敢なる獻身を表はさんが爲に、斯の如き代價を拂ひました、此恐怖なる歲月の間に、漸く彼等の眼に選擧權の重大なる事が映じて來た、終に選擧權運動の先鋒と手を連ぬるに至つたのであります」

反動政策の巨頭ゼチラル、ボブリコフ、プレーグエ及びセルジウス大公の暗殺、日露戰爭の戰鬪、之に加ふるにフインランドが秘密の武力の抗爭を計つて居たことは、傲慢なるザーをして壓抑の手を引込めて、フインランドに對して從來よりも大なる自由を許すの止む可らざるに至らしめた、斯くて男女の區別を徹したるフインランドの新選擧法は一九〇六年廿日ザーに依て批准せられ、同年十月一日より效果を生ずるに至つた。茲に於てか彼等の新題目は如何にして新たに獲得したる此權利を利用すべき乎であつた。

「三」（選擧運動の準備　新教訓とは何ぞ）

然らば如何にして新たに獲得したる此權利を利用すべき乎。彼等は來る可き選擧運動の準備として、各々其政見に從て在來の政黨に加入した。併し乍ら全社會の利害を他所にした黨勢擴張の訓練に盲從することは彼等の斷じて初めより拒絕した所である。故にドクトル、フリーベルグは下の如く其立場を說明した。

「各々其力を盡して、始めて政黨黨派の間に行はれて居る敵對と勢力の濫用を緩和するの責任は實て女子の双肩にあると感じました。女子にとつて此政治的生活の根底に存する精神にして、或は其外部の形體にしろ、之に新らしい生命を注ぐことが出來ませんならば、そして斯たに現在の腐敗を強める爲めに助勢を加ふに過ぎませんならば、女子が新たに政治界に入るに彼等の爲めにも人類の爲めにも何等の利益はないでありませう。政界に最も欠乏して居るのは實に選擧人の增加ではありません。獨立せる新勢力、新しい本位と新しい理想を引入ることであります」

併し乍ら多數の婦人に取ては投票用紙は尙ほ紙屑に過ぎなかつた。眞の苦心の存する所は是等婦人の教育であつた。新選擧法と選擧の方法に關する講議は至る所に催され、小冊子は森の奧にも工場の裡にも洽ねく頒たれ、投票の實地練習までも行はれた。而して此苦鬪の苦心の結果が次の總選擧に於ける十九名の女子議員の當選となつた。一面の寫眞は即ち此運動の先登に立つて戰つたミンナ、シルランパ、マリア、レイネ、キールダ、キアスコスキー、（オルトフイニシユ黨）ヘレナ、ウエステルマルク（スウエヂツシユ黨）、及びドクトル、マイキ、フリーベルグ（ヤングフイニシユ黨）の五名で最初の二人は實に社會主義者である。之れ實に自由の勁敵たる露國皇帝を威嚇するに足るものである。

されど之を以てフインランドの女子解放の大業が完くせられたりとせば大なる誤である。フインランドの女子が投票と政權の一片を得て甘んずれば、女子の選擧權はフリーベルグ孃の警告の如く、男子の政治的罪惡を助け、若くは政治的罪惡の仲間入をするに過ぎないのであらう。そして其投票は權力階級の掠奪制度を支ふ可き支柱を增設したのと異らぬであらう。今日まで女子と勞働階級の眼を掩ふて居た政治的不平等が一度び切下ろされた時、彼等は共に其欲する所の何たりしかを明かに見ることが出來る。而して再び彼等に「禁獄とシベリヤ流竄」を賭して新題目に向ひ戰ふの勇氣ありや否や、フインランド婦人に捧ぐ可き最後の讚辭は暫く此時迄で保留して置かなければならぬ。然らば世界婦人の新教訓とは何ぞ。「彼等は禁錮とシベリヤ流竄の絕え間なき危險を冒し然して一人ならず彼等は自由に對する勇敢なる獻身を表はさんが爲に斯くの如き代價を拂ひつゝ一度勝を諦めずして女子の解放を望む者に、フインランドの婦人は羞恥と反面を與ふるものである。（終）エーピー子

露清兩國の饑饉

露西亞と支那とは現下饑饉てふ大敵と鬪ひつゝあり、其露國に於ける慘狀は世の既に知れる所にして東南地方にある二千萬の人民たるや、若し速かに救濟するにあらずんば、來るべき收穫期をも待つ能はずして死するの外なき由。其の婦女子は窮乏の恐怖と、餓死の恐畏とに病み衰へ、而かも猶生きんが爲めに、恥づべき、嫌ふべき業に其の身を賣らざるを得じ、而して恐るべき傳染病の流行に襲はれて、遂に人生の杯を以て、悲慘を掬み盡し了るなり。

支那に於ても亦、一千萬の住民は饑餓の淵に沈み、其三萬は將に死に瀕しつゝあり、而して日々死に逝く男女の數實に五千人彼等の家々は死骸を以て累々たり巷にも亦倒れて死せる老幼の死骸堆かし狂する者、食ふ者、至る處に嚙み合あり而して新らしき墓地のみ獨り彼等を待ちつゝあるのみなりと。

S、Y姉に答ふ

友邦

貴に自由戀愛は一夫一婦の主義と兩立するを得ざるものなる事を論唱したる小生が如何に完全なる一夫一婦として自由戀愛より成立したる夫婦に就て言ひ、良あるに對して、或は之を矛盾なり、自由論者なりと做す。然れ共姉も靜かに論理を辿り、且つ實際に徴し加ふるに、一夫一婦なるもの、專制的性質を觀察するを得ば小生の決して不對せざるを發見せらるべし。自由と云へば既に一夫一婦てなければならぬと云ふ主義と相容れざるは明かならずとも、又一夫多妻てなければならぬと云ふ事も明かならざるなり。而して理想的に自由を好む男女が、眞に熱烈なる相戀の境涯に立ち、事なしとは言ふべからず。若しそれあらば、同時に二人が互に熱烈に相戀し、或は第三者を求むる能はざる戀愛に結ばれたらんには、此は幸福なる、其亦夫婦にてはあらざるか。自由戀愛は、此の夫婦をも強ひて破壞に終らしめずんば偶まざるものにあらず。不戀愛に會はんとす。自由戀愛は純潔なる人生の自然性なり。而して其終了せんや敢て利害ある男女の眞心の合體なり。結婚とは戀愛して永遠に結ばんとするものあるの事しく自然の勢はしきものにして、若し完全なる夫婦を求めんとすれば、之れ即ち一夫一婦の合體なり　と云ふ所の盡さいる處なかるべし

進までや

孤舟

嵐は雨に、あるひは雪に、
あるひは霧に或は霜に、
飢ゑに、寒さに、
窮めに、病みに、
いと艱苦の身、アー
さはれ進までやあるべき

谷間の流れ、チヨロ／＼
その葉の船し浮べ得ず
微かにチヨロと、チヨロ／＼と
何處來しや、既に湖や
見よ、われらの理想
天を衝いて、嵐の梅も聞へぬ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小説

右平左平

（一）

友

神田橋を左に曲り、河岸に沿ふた電車の筋を錦町へ拔け、神保町を突き切つて俎橋の大道を九段に反き、今川小路から西小川町へと曳き込んだ五十歳餘りの車夫が、息は絶れ〱、片手に舵棒握ぎり、片手には汚染れた手拭で、其の手もぶる〱と顫はせて汗しどろになつた蒼黑い顏を拭きながら、狹い町の兩側を探がしてゐる

『仙臺館ですね』

と、果てた嗄聲で車上なる客を顧みる

『は』と答へたのは妙齡の廂髮、葡萄鼠のコートの袖から其白な手を暢べて、膝の上のカバンを抑へながら

『此處が西小川町ですか？アノ十三番ですよ』

老車夫は猶ほ戸毎を讀み〱行く

『オー分りました』

『アー乾度それですね一寸尋ねて下さいな……』

『御免なさい、此方に明山寛様と被仰るお方は被居いませんか』と車夫が格子戸の外から尋ねる

『ハイ、被居いますよ』と襷掛けの若い女中が迎へた

客は俥を降りて嫻娜な姿は戸の内に入る

『私しは大阪から參りました者で田原芳と申しますが、あの明山様に御目に懸り度ふ御座いますので……』

『大阪から、田原様ですね、承知致しました』と、麻裏の草履パタ〱と音さして、女中は右手の廊下を小走りで往つた

『それでは車夫さん、もう宜しいよ』婦人は銀貨を出して『御苦勞様でした』と遣る

車夫は、受取たお錢を算いて見ると十錢銀貨が十枚

『之れじや多ふ御座いますよお客様』

『アノそれだけ取つて頂戴、疲れたでせうね－』と恤はる風性に、車夫は憐れしくも忝けなく『何うも有難ふ御座います』と幾回も頂いて『それでは御緩くり御休みなさいませ……』老車夫は虛車を曳て元來た道を猿樂町へ出た。疲勞れた身にも元氣が附いて何となく足も輕い、心には今の客人の賴もしい懷かしい姿が映つてゐる。春の日暮の神田の町の繰るが如き往來を毎ものやうに蒼蠅くも覺えずに、獨言しながら縫ふて行く

今の客人が我が子のお初と年格恰の似てゐる處から、そのお初が吉原に娼妓をして此頃はすつかり身體が弱つてゐる事を思ひ起したので、老車夫の吉松は、憐れしい凉しい元氣は忽ちにして、厭やな哀しい思いの潮に襲はれて終つた『あー俺れは因果者だなア』と彼れは溜息吐いて『嘉平が生きて居て呉れりあ正目斯様苦しい目は見まいに、考へれば考へるほど世の中が厭やになつて了ふ……お上の爲めとか言ひやがつて……ズー何にもんぞに取り立てやがつてベラ棒奴え、兵隊なぞ彼も瘤で溜らねえ、お上の奴等は一統平民に對して泥棒だ、追剝だい、見やがれ畜生！手前で作つた貧乏人を手前で勝手に追廻わしてやがる！アー……曳けねえ腕で俥を曳いて……曳かなけれや餓死んで仕舞ふ……死ぬなあ可いさ、それは可いが俺れが死じやア妻を看病する者は無いし、兒女共を介意つて呉る者もありやしない……駄目々々彌張貧乏人にやア神や佛は仇敵も同様だ……、アーア此間の大地震が亞米利加でなしに何で東京に無かつたろふ、東京をブッ潰して燒き拂へば可いに……チヨ、寧その事己れが東京中燒き拂つてやろふかなア

アー死んで了えてえなあ、幾ら稼いでも五貫の錢を取るにやア俺れにや骨だ。でも取らずにや仕方がなし……耶蘇教も虛言ばかり吐きあがるなア、神様が人間に萬物を呉れたんだとか何とか好い加減の熱を吹きやがつて、ザマ見ろい、五合の米だつて錢が無くちやア自由にならねえや、手前の神は政府の小使だろふ馬鹿々々しい、今の世の中じやア神様よりも金様だいベランめえ』老車夫は永嶺吉松と云つて下谷は萬年町の貧民窟に居るのである。牛の歩みで一つ橋の畔へ來掛ると對ふから疾風の如く走つて三臺の俥が來る。『ハイ〱ッ』と激しい懸聲に、アワヤ吉松は衝き倒されんとした

『オイ〱、間拔奴ボンヤリしやがるない』と罵りながら眞先の若い車夫は、辛くも避け得し老車夫の横面を穴の明くほど睥み附けた、が『これは何うも……』と恐恐に詫びるので、後の文句を小言に散して彼等はガラ〱と走り去つた

『チヨ、厭め〱しい……』と哀れ老車夫は呟やきながら往くのである

（二）

今し仙臺館の二階には燈火が點いて、雨戸の板の隙間から細い赤い光りが洩れてくる。明山寛と田原芳子、二人は何を語りつゝ在るのであろふ

三年前に相別れてからは互の間の通信が絶えてゐた。芳子には、明山が東京に居るとのみ唯其れのみで、東京は何區の何町やら遂ひ此程迄其れが知れなかつたのである。そして二人の關係が兩親に知れて以來明山は大阪を去り、芳子は殆んど幽閉の身となつて、配所の月に恨らみを遣り、折ふしは憂き雲に思ひも闇らみ、瀧なす涙に狂せんばかり、哀しき寂しき一夜をば泣いて明した事も幾度あつたか知れない

偶とした處から東京の明山が住み家を聞き取つた芳子の悅び一方ならず、凝りし想ひ、燃ゆる情、丁度來月中旬には婚禮せよとの母の言葉に接した夕べ、芳子は中之島の我が家を脱け出で、遙々と此處迄來たのである

明山は故郷の兄が戰死してからと云ふものは兎角兩親に歸國を促がされ、折柄芳子との關係やら、或は彼が社會黨になつたと云ふやうな噂が何時しか故國に傳はつたので、父は嚴酷な書面を寄越して早速歸國を命じたのを、明山は斷然拒むだ。其の結果學資の供給はヒタと歇つて了ひ生命と賴む戀妻の芳子とは面見る事も悵はずなり、苦悶の裡に漸つと關西法律學校を卒業して直ぐ大阪を出發した

梅田驛を立つたのは丁度三年昔の今頃であつた。夜の十二時から朝の十時迄三等室の片隅のむさ苦しい處に身動きもせずに考へ續けて居る其のうちに、滊車ははや新橋に着いた。プラットホームから吐き出された明山の身は早や東都の塵に包まれて、一段と荒い憂い浮世の風浪に飜弄されねばならぬ。霎時は停車場の前に蹈み止つてボンやりと、かの騷がしき巷の音に耳を欹てたが、忽ち心に領いたやう、其固く閉ぢた唇には健忍不拔の意志を示めし、其眼は爛々として燿やいた。彼は歩みを運んで雜沓の中に身を投じ、間もなく車夫といふ職を選んで由來舵棒掴んで毎日東京の市中を駈け廻つて居るのである。明山が斯の境涯に居る事とは芳子は豫想もせなんだので今更驚かざるを得なかつたのだ

。。。。。。

『芳さん』『ハイ』

『赦して下さい、僕は芳さんを捨てるのでは決して無い、僕は戀に死んで終つたのです。否や僕は主義に捕はれて終つたのです、そうして無情冷酷の男子となり果てゝ終たのです、僕は芳さんの夫にもなり得ないばかりじやない誰の夫にもなり得ません……芳さん！僕は家庭の父たるの資格は有たないのだ。僕が片手に家庭を營み、片手に主義の運動を爲やうとしてゐたのは、既に過去に屬する夢の一と卷に過ぎない……』

『明山さん……』

芳子はせき來る涙を飼へかね、時雨に濡れし薔薇の如、涙に潤ほふ美くしい顏を擧げて明山を見るのである

『……私は何麽艱難でも厭はない決心で御座います……何うせ御一所に居れないからには死ぬるより外に仕方の無い身ですもの……明山さん何卒御一緒に若勞さして下さいませ、貴君の妻として……芳子の唯一のお願ひで御座います』

芳子は言葉を切つて泣き伏した。明山は更に言ふのである

『いや〱其れは可けません、僕には最う戀を滿足するの資格が無いのです、嗟呼僕の主義、彼れは其の資格を僕から奪はずには休まなかつたのです、芳さん僕も悲しい實に哀しいそして不自然です、けれども必要だから仕方がない。僕は貴女との戀を滿足さする事が出來ない、貴女にも愛して貰ふことが出來ない』

芳子はハフリ落つる涙を拂つて

『明山さん！私しは悲しふ御座い舛、私しは迚も貴君に伴れ添ふ事が出來ないので御座いませふか』と愈々痛いけに。

深け渡る夜の靜寂を破つて樓下の時計は十二時鳴る

『芳さん！昔の明山寛は死んで了つた者と諦めて下さい、僕は何うあつても結婚は出來ません。結婚は子の親となる事を豫想して居ります、處が僕には夫となる資格も、父となる資格もないのです、僕は絶對に家庭の人でありません……赦して下さい芳さん！僕は貴女の愛に反いて社會に獻身して了つたのです。嗟呼僕の主義！彼れは實に僕の怨仇です。僕は其の怨仇なる「主義」を抱いて朽ち果てるのだ……』

此時戸外で電報と！呼ぶ聲が消魂ましく聞える、今し床に入つた女中が起き出てゝ見れば、明山宛のそれである（つゞく）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

東北地方の婦人

門田稻葉

その地方によりて、人情、風俗習慣の異る所以は、四圍の地理的事情の、司配を受くる爲であることは、今更云ふまでもないが、東北地方には、地方特有の奇習が少くない、随つて婦人社會にも亦、未だ他地方に於ては見聞し能はざる風俗、習慣が多くある。單に一地方の、一事實として、これを雲烟過眼に附することの出來ぬ、最も悲むべき、最も憂ふべき、重大なる婦人問題すらも、この風俗、習慣なるものに潜んで居る。併し、これ等の多くの事どもを、洽ねく網羅しようと云ふには、容易のことでないので、茲には福島、宮城、岩手の三縣を中心として、掻い摘んで書くことゝした。

東北と云へば、六縣盡く同じやうな考へを持つて居る人が多いが、實際はさうでない。詰り一縣のうちでも、山附方部と、海濱一帶と、中央部落とが、總べてに於て、差異あるが如くに、六縣の人情、風俗、習慣は勿論別ある。それは今日に始つたのでなく、因襲の久しき、今日に迨んだのであることは、他の地方に於て見る、それと擇ぶところがない。

風俗を叙するに先つて、少しく地理上に關して云ふの必要がある。地理的關係、及び交通上から云へば、福島縣が、東北に於ける、文華の中心たるべきは、當然必至のことであるにも拘らず、事實はこれに反して、宮城縣に、文華の中心を奪はれて、福島、岩手、山形、秋田、青森の諸縣は、其糟粕を祇つて居るのである。それは仙臺市が、東北に於ける重鎭たる丈けに、社會的政治的中心たらんとして、總べての機關を設備しようと云ふにあるので、現に角、着々事實として、現はれて居る。

されと、婦人社界に於ける、進歩の遲速、活動の歴史は、必ずしも、これと相併行しない、以下は即ち余が多年、東北地方を放浪して、見聞したる事實である。

△風俗の梗概

地方の所謂上流社會は、官吏にありては、知事、事務官、判檢事などの高等官で、その他大地主、貴衆兩院議員なども算へられて居るが、官吏の多くは、他府縣人で、纔かに大地主其他が土着の人であれば、上流社會なるものにつきては、多く云ふべきことがない、地主などの家庭を見るに、極めて質素なものである。地價も、地租も、中流社會の人の月收位上納するうちの主婦でも、一反八十錢乃至一圓廿錢位の、ゴリ〳〵する地織木綿の衣物を着て、襷がけで甲斐々々しく働いて居る。されば、世間の人々は、吝嗇だとか、爪を箒にして、財産をつくッたとか、種々なる惡口を叩いて居る。最も多額納税者の主婦とも云はるゝ人に就て見たのであるが、市とか村落に至つては、又別である。市に於ける、銀行の頭取、會社の重役などの妻君は、不相應の容姿をして居る、流行も逐ふて居る、贅澤も仕盡して居るが、村落に入りて、貴族院議員や衆議院議員の夫人を見ると、堆肥(藁の上に馬の糞尿をたれたるもの)を田畑に運び、田の草取もする、山へ柴刈にも出かける、斯くて傭人や、家内のものと一緒に働き、常に襞切りの無尻(袖無しのこと)を着て、羽織や絹衣裳などは、婚禮に招待れた時か、法事に行く時か、町に所用あつて行く時の外には着ない。偶々絹衣裳を着ても、手足が太く、姿が惡るく、東京の人が珍しさうに彼等を見るのも、無理からぬことであると思はれる位に、着こなしの惡いものである。皆々然うでもないが、衣裳道樂でも始め、女のたしなみと云ふ、化粧でもして居るものならば、老若に拘らず、直ぐに情夫が出來たとか、身上(財産のこと)倒しとかケチをつけられるのである。これに反して、所謂中流社會に於ては、收入にも一向頓着せず、甚だしい者は、借金してまでも、着なければ承知しないのである。下流社會にあつては、殆んどお話しにならぬ。奥州の食ひ倒れと云れては居るが、仙臺の中流社會には、近年着倒れと云ふ傾向が見えて來た、福島、盛岡の地方は、仙臺ほどではないが、少くとも、此傾向のきざしだけはある。着倒と云へば、何となく恐ろしく聞えるが、奢侈に傾いて來たと云へば、淳樸質素なる東北の風を滅するのが、何となく悲しいような氣がする。福島、宮城、岩手の諸縣を通じて、下流社會の婦人が、夏になると、チャン〳〵(下衣のこと)と稱する、腰きりのもの一枚きて、あらはに腰卷(褌のこと)を出して居る。所謂中流社會の婦人までが、斯んな容姿して、平氣で町の眞ン中を歩く。これには他府縣の人が、少からず驚されるやうだが、仙臺附近が最も甚だしい。又雪の深いところや、山附方部へ行くと、婦人は「マタシャレ」(一に「モンペ」など云ふ、股引ともつかず、袴ともつかざるものを、穿いて居る。これは一度穿けば脱がれぬさうで、故後藤貞行氏(美術學校教授たりし)が、屢々東北を旅行されたので、紙布で縫つて穿いて居つたこともある。一體に婦人は、無尻といふものを着て居て、袂のついたのを着る者は稀れである。（つゞく）

編者曰く。風俗に關することは、一地方のことゝ雖も書くべきこと多きを以て、包括して記し難いから書く。

孤堂日錄

澤井

◉五月十一日　隣家の鷄が來て餌を盗み食ふて居た。宅の鷄は之れを拒むがやうに見えたが向ふの鷄は逃げる。追へば逃げる。到頭、隣家の鷄の内に逃げ込んだが今度は逆に宅の鷄が追はれる。宅の鷄が逃げて來た自他の區別は中々嚴しいやうに思はるゝ。

◉五月十二日　此處此處には茶摘みの姿が見える、もう茶摘の最中である一小唄「茶畑〃御茶摘み乙女、年は十六、緋の襷」

◉五月十三日　舊格言を破壞するはやがて舊思想壞滅の兆である。舊格言が吾人の機微を抑壓する間は、革命は遂に成り難い。

◉五月十四日　友が來てこんな事を云ふた。今の經濟上より六疊で一間勉强して炭や石油の節儉を計る事とした。此處に於てか「社會形態の變遷は經濟狀態の變遷に基く」と云ふた者もある。

◉五月十五日　降校の途にて肥桶を積んだ車に出會ふ。肥桶には躑躅愛すべき白花が一枝挿されて居る。其の對照は丁度與三と御玉のやうに見えた。

◉五月十六日「純粹種の卵でも食卵としては二錢しきやせぬ、種卵としては二十錢のものなるにかくの如し」と友は氷解し能はざる疑問であつたらしい。夫は何でもない。美人は美人として始めて値打もあらうが、工女にして見玉へ、時節柄御茶摘みに畑へ出して見玉へ、夫れと同じ事だ。純粹種は純粹種だから消弱なる體質でありながら價格も安くないので、實用鷄としては吾人平民が最も有力なる夫れの如く別に種類がある。

◉五月十七日　去年買つた雛も今は卵を產むやうになつた。今日は卵を拂つて來やうと高足駄を突かけたまゝ卵箱をぶら下げて出かけたが、丹精半歲大枚一圓一錢五厘を得た時の快、株屋連などの與り知る所ではあるまい。一錢五厘は郷里への報告料、一圓の殘では第一鷄の餌を買つた。今迄で不足して居た粗も買つた(こゝで一言する。今迄では鷄の遣を無理に粗の代理を勤めさせたのだ)。弟へも帽子を買つた。其の殘金がチャリと袂で鳴る。心地がいゝ。僕は拜金主義者としても恐らく成功した方の人物であらう。

◉五月廿一日　浮かぬ男女の眞面目な世帶、杉の若葉と齊かへで。窓より外を覗けば杉と楓が微風に揺れて初夏の姿其のまゝである。

◉五月廿二日　無知の知人がぶらり杖を常壚に曳いて武藏野の風光論や僕の家に對する批評を試みて行かれた。一風ありげな男であつた。

◉五月廿三日　主義者と云ふものには自ら名乘り出で、漸やく其の名を汚す類のものも多い。彼等には一點主義の色の見えぬのもある。忍ぶれど色外に現はる。名乘らずして自然に主義者の風骨あらば即ち名乘りて而して僅かに主義者の名をつなぐ者よりも遙かに優るではないか。吾人は主義の名に束縛さるゝを好まない、たゞ一個赤裸々なる吾れとして活動したいものだ。

◉五月廿四日　他人が余りに正面過ぎるのを知て憎いとて强ひて疑つて見たり。一寸世間に乘つてはチャホヤ浮調子に聞扱て見たり。而して曰はく「せち辛い今までの世の中、餘程確乎せんといかんよ、吾れ〳〵は正義を標榜して結開すれば夫れでよいのだ」と。

◎五月廿五日　道行く大師參の老女が伴れに話るを聞けば「慾の深い人間でさへ日が長くなつたと云ふ程だから餘程長いに違ありませんやねい」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

婦人解放管見

（遠藤兄の男女對經濟問題をよみて）

神川松子

人類既に男女の別がある以上は、その性情に於ても又職分に於ても、自ら多少の等差はある。即ち男子は男子としての職責があれば、女子は女子としての天分がある。畢竟するに婦人解放運動も、不自然な舊來の奴隷的境遇を脱して、女子をして眞個女子としての本分を發揮せしめんとするにある、決して〳〵男女の等差を全然抹殺して、男子を凌駕せんとするが如き暴案に出づるのではない。而かもかく不自然なことは夢にだも出來得べき筈がない。あの和平な、優美な女性に對し、男子に代つて三軍を叱咤統帥しろと謂たつてそれは無理な注文である。女子は女子としての他に幾多なすべきのわざがある。おの〳〵自己の性情に對し好適な任務を完ふしさへすれば、人生の能事それにて足れりだ、そのなすことが大であろーが小であろーが何んの云爲すべき要はない。縱令女子に大兵を統率すべき勇武がないからと云つて、女子をして人類最下等に蔑視し女性屈從主義を以て女子を縛せんとする所謂現代の男子に至つては、その心狀大に憎むべく將た笑ふべきではあるまいか。殊に甚しきに至つてはかゝる暴戾なる男子に、思ひのまゝに驅使せられ、翫弄せられ、汚されつゝも尚ほ三指のリングのルビーに昏惑しさてはオツにも付かぬ絹ショールを、色あでやかに着飾つて、如何にも得々と僞愛嬌を振りまはし吾こそ所謂女らしき女なりと、多々駄辯を弄する世間幾多の馬鹿女あるに至つては、馬鹿も大馬鹿その無能不定見のほど、實に寒心の外はない、笑止の外はない。若し彼等をして眞に女らしき女なりとせば、余は死んでも女たるを欲せざるなり。實際現代一般の女を以て眞の女性とすれば、人類社會に於て女子なるものは、僞善と、虛榮と、無愛情の土塊に過ぎないのである。到底清高純美な人生の影を女子に於て求むることは出來ない。げに現代の女子にして、女子として清高純美な影を宿してゐる人が幾人あるであろーか、赤誠丹心を以て己が愛人のため、或は社會人類のために盡瘁すべき人があろーか。彼等は虛榮を誇らんがために愛を弄し、己が住家を探さむがために、戀を語り、ホームを求むるに過ぎない。彼等は虛榮と富とのためにはいかなる屈從にも堪へ忍びいかなる暴戾にも甘んずるのである。さてかく無愛情な無神經な土塊も尚は幾分か男子より尊敬を拂はるゝ所以のものは、決して女子敎育の御蔭でもないし、本鄕會堂の繁昌でもない。ましてや庇髮の突擊でもなければ、目白臺の戀風でもない。唯々赤裸々に云へば、人間本能の生殖に對し、或はホーム的感情に對し、男子がいかに威張つても、女子なるもの、相對を得るにあらざれば、ホームも作れないし、子女も生めない。於此か女子は男子に取て、ある方面に於ける必要欠くべからざるものとなる。かく必要欠くべからざるが故に無能痴漢陋劣下賤なる現代の所謂女子も、幾分か男子より尊敬を拂はるゝが如く見ゆるのである。實際考へても見られよ、現代の女子の如く眞の愛情なく、虛僞虛禮、何等獨立の自由なく、唯男子の懷を狙ふて自己の虛榮を完ふせんとするが如きものに對し、誰かこゝろあるものが毫耗だも敬意を表すべきであろーか、尤よりそは過度時代に生れし混沌の寵兒で眞情大に憫むべしであるけれども、決して女性本來の性情ではない。

そも〳〵女性本來の性情に至つては、情花の化神であり將た和平の影でなければならぬ。淋しい荒れはてた世の中も女子あるによつて春も來れば花も咲く、鳥も歌へば月も笑まふ。無心の水流も何んとなくさゝやくとは、女性のやさしい心事を歌へるものだ、さるを現代の樣に冷たい邪氣の深い何等見識のない女性に至つては、それはとても御話にならない、しかしいづれそが發展の時は來るであらう。畢竟婦人解放問題も本來の女性發展の意義である、絕對に奴隸的境遇を脫して、人として將た女子として自由の權を獲得するにあるのだ、それには先づ第一經濟上の獨立を得なければならぬ、如何に口で理屈をこねても或は參政權を獲得しても若し經濟上の自由がなかつたならば、女子として或は人として眞に特權を得ることは出來ない。女子にして若し經濟上の基礎が確乎としてゐれば、いかなる攻擊にもよくそれに抗することを得るので、畢竟從來の女性的男子に屈從する所以のものも、ドゝのつまりは女子に獨立の自由がないからである、女子にしてもし獨立の自由を得なば男子に隸屬する必要はないし、男子もまた、女子を今日の如く蔑視するとは出來ない。而かも進んでは女性發展のため、絕對に舊來の屈從的意氣地なき道德を打破し、迷妄なる舊習慣を破つて大に、女性發展の新路を見出さねばならぬ。

吾人は元より柔弱なる女性に對つて、男子と對等の勞働を取れよと進むるのではないが、しかしある時代の犧牲の意見として、舊來の檢束を打破せんには、かゝる社會的勞働にも堪へ忍ばなければならない、向後婦人解放問題の絕對に絕叫せらるゝ間は幾多獨身者も出ようし、時代の犧牲者は續々出るであろう。併しこれは婦人救濟のためにやむを得ない犧牲である。いづれは雄大なる事業、到底容易になし遂ぐるわけのものでない。

終りに臨んで一言する、斯の至難至大なる事業、即ち人心の革新、社會の革命は吾等婦人の自覺より生ずる新生命の力に因つて爲さるゝのであることを。

○斬雲和風

井上高陽

宇宙は濶く地はせまし
萬有活ける天が下
物質に死は無し　とことはに
動き〳〵てそれ〳〵に
活きて希望のあるならで
希望のありて生くるなれ。

限りなの濶き宇宙に
播られ〳〵て漂ひる
地球のひろき木の實大
神の御園のこの地に
『人』と名のつく動物が
生り出し汝は誰が業ぞ。

愚痴なるかな、地の人や、
ひんがしの人西のひと
色、黃なりとて何ならむ
白きも何の差別かあらむ、
人といふひとは蠕らじ
道理は古今一轍ぞ——

物語がしきうつし世や
榮華の夢なたゞ知りて
『愛』てふ聲な聽くに耳なく
悲慘のきわみ殺鬪の
『戰爭』てふもの世にあるな
希ふか汝——醜の奴子よ。

戀の火にはみづからの
『胸』てふ城壘を燒き崩し
同族相互ににらみあひ
同胞ともに相せめぎ
虛榮のうてな他の領土を
取るかとらぬか奪らるゝか。

紫の色、醒めやすく
眞紅のいろの光輝きは
僞善人に『眞實』なし
まごころこめにし愛の色
人の生涯二萬餘日
土領のひろきも奈何にせよ。

「まこと」貴し——天然の
地より生り出し人の子が
みなそれ〳〵の戀ありて
眼中に愛の影もなく
虛榮のとこに光る黃金の
むなしふ桃希ふ、あゝ罪の人。

醜の奴子よ——萬くされ
うつし身何ぞ老さらむ、
汝が戀ふ——黃金の
花、とこしへの花ならで
且にちりて地に入る
こがれ爲貫何の要!!。

よこしま人よ、つみ人よ、
天父の聖けき御ことを
愛なる神にしゆく聰を
くちに祈れどふる舞は
たゞ邪曲の事業にして
「まこと」の路を踏らぬごと。

神見そなはす人の子の
育ひたつさまを叙つかうて
貧慾と鬪ふそのさまよ、
神の御旨に背きて——汝
穢なる劍をぬき翳し
同胞たがへに鮮血にそむ。

人、希望あり——何の希望ぞ
同胞ともに相むつび
神の御園にやわらぎの
樂歡さきとにかへらなむと、
されば劍折り、鎚すて、
大龍の召しを待つべきぞ。

彼は汝をば地に生らせ
愛の律法にはぐくみて
眞理のみちをさとらしめ
聖き靈をたまはりて
けふ靈の上の樂園に
『いざ來れよ』とよび給ふ。

社告

本誌は今以て編輯が行き屆かない爲めに、發行が遲れて居ります、何とも申譯がありません。併し精々骨折つてやつて居りますのですから、何卒皆樣の御寬容を願ひます。且つこれからは是非〳〵遲れぬやうに、今まで遲れてゐる日限を一回每になりとも追ひ附くやうに努めます故、相變らず益々御愛讀を願ひ升

次に、前金切れの方には帶封の表へ記して上げた答で御座いますが、どうぞ急に御送金のほどを御願ひ申升。實は修道の方針もてドシ〳〵と送つて上げたい旨意ですけれども、如何せん、實力が御座いませんで——それで金切れの分は發送をトメなければなりません、どうぞ惡しからず御思召して下さい

それから又、本誌の代金を郵券にて御代用になるときは、必らず五厘切手にて御願ひ致します

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

▲石川兄の第二信

第二信を差上る事となりました、何方も御無事の由大慶至極に存じます、僕も益々健全、此の頃は獄中生活にも慣れて、我が家に在る心地で暮して居ります、御安心を乞ふ、△去る廿五日には諸君の快活なる美はしい御顔を拜すると(が)出來て嬉しかつた、思はず深編笠を脱うとすると生憎僕の双腕は鐵鎖に縛られて居たのでした、△大阪平民、社會新聞とも各々發行になりし由、諸君の御骨折感謝致します、△昨日山口君等に對する新兵事件の判決を聞いて僕は實に血を湧かしました、そして終日殆ど書物が讀めぬ位でした、獄中に居りて神經が鋭くなつて居るとは言へ、マダ〳〵修業が足らぬと自分で嘲つて居ります、但し「彼」の戀はドコまでも戀です、「彼」の殘忍はどこまでも殘忍です、必ず大審判の時は來ます、地を畜ふて赤旗の翻る時は來ます、吾等は之れを信じて戰はねばなりませむ△堺幸德兩兄より暫らく音信が絶えましたが別に御變りはありませむか△社會主義の夏期講習を開く御計畫ありとの事結構です△竹内餘所次郎君御歸京益々消費組合に着手せらるゝ由、片山氏とも御協議ありては如何、同氏は此事に付きて新らしき意見を持して居られる樣です、△勞働奬勵會の方は如何ですか、益々發達の事と存じます、來年の五月二日にも僕は一ダ出ることが出來ますまい、△幸德兄は「パンの勝利」の飜譯に着手しましたか、僕は其の前にクロポトキン翁の自傳を堺兄と共謀にて譯して貰いたいと思ふ、△僕の裁判も廿二日に定まりし由、ドウか公判を開らく樣になれば宜い、併し強てとは申しませむ、先達ての樣に行けば甚だ結構です△逸見君は御多忙の處を屡々差入物を送つて呉れる、感謝々々、御序にフイシャーの History of Christian Church をどうぞ送つて貰いたい僕の本箱にある僕は萬國史と近世哲學史が欲しい、可成精しいのが……(中略)△谷中村の事深く諸君の勞を謝します△山川君、深尾君、寒村君、柏木連の顔がさぞ嘸かしと羨ましい、

六月九日　石川三四郎

たより

▲田中正造翁より　昨日は諸氏の地所谷中にて收用せられたる日付に有之候、就ては土地の所有權は收用せられたるも人の精神と買收非道の問題は、惡魔之を收用し能はず、而して去る二十八日及明六月一日は谷中事件の演説會も開け又入日には公判もあります

▲同じく　無學の罪か將た手落ちか、獄中への信書は從來甚だ面倒にてわりし爲、手紙下手の小生は却て難みて遠慮せしに、今回石川君より貴下に宛てたる長文の信書をば逸見君より拜見、其紙末に通信規定ありて信書の法則すらよければイツも差閊なき文明國、監獄信書掛の事を知りて生の舊思想一掃いたしました

(五月三十一日)

▲樺太より　此度は世界婦人初號御贈與被下誠に難有存升、誘讀致升から二號より引續き御送り下さい、小爲換券壹圓差上升(中略)當地は今が櫻花の盛時です併し極僅少です、昨年の今頃は甚小屋ばかりで、普通の家は五六位でしたが、今では立派な市街となり約千戶斗りも有り升

六月七日　高野淸康

。。。。

▲鑛業いよ〳〵色をまし天地の間生氣充實致し候折柄御社の諸姉兄彌よ御奮闘奉賀候、我等は遙かに諸君の健闘を祝し居り候……谷中村の運命も遂に今日三十日を期して決せらるべしとか、我等は非常なるインスピレーションを得てその吉報をまちつゝ在り……別券の小爲替金壹圓聊かには候へ共我等の微志に候間谷中村民救濟金の中へ御加へ被下度此段御手數相かけ申候、紙上へ御發表の時は長濱町同志となし被下度候　五月卅日

伊豫國喜多郡長濱町　某々

▲當地へは十五日發行の貴誌昨日着しました、採る手オソシと早速拜讀しました、アー涙！谷中村の慘憺、オー同胞！私は泣きました、アー最後の戰ひ、私しは何うしてよろしいやらわかりませぬ、願くば私の涙、壹圓を受けさせ給へ廿九日

銚子町　○○○生

▲谷中村への寄贈

一金貳圓也　府下東大久保　大須賀さと子

一金壹圓也　伊豫國長濱町　同　志

一金壹圓也　銚子町　○○○生

新刊雜誌

▲家庭雜誌(第五卷第八號)　主義の主張に忠實で而かも趣味に乏しからざる同誌の本號は、若宮氏「非壇泉論」小劍氏「耕作」中尾氏『何故に結婚する乎』堺氏「貧民長家」等の重もなる記事を以て頗る賑やかである。今其中の「婦人解放の第一步」てふ深尾韶君の文から少しばかり拔いて見やう……實に結婚後の婦人はと、よく奴隷婦人の範を示してゐるものはあるまい。故に進歩せる獨立婦人は、往々にして結婚を拒絶せんとする……『無智』は奴隷婦人の全部である……「婦人解放」は男ばかり騒いでも、肝腎の女が此有樣では手のつけ樣が無い……人らしい人が無いから解放運動も出來ぬ……當然の進行を以てすれば、吾々男子は、先づ婦人解放の實行に着手して……臺所といふ重き厄介物を、婦人の手より取去るのが、其第一着手であると思ふ……等頗る重を得るものがある。一部代金郵稅共八錢府下新宿柏木三四二同雜誌社發行

▲中央公論(第廿二年第六號)　內容の重もなるものは「南清に企業すべし」「趣味論」の社論をはじめ「迷信の排除に就いて」の三上參次氏の論說。而して一葉女史に對する文士八九名の評說、詞藻欄の『鴨』紅綠「ネギ一束」田山花袋「銳」柳川春葉等の小說あり。其他雜錄數十頁代金一部十八錢　本鄕駒込西片町十反省社發行

ジョセフイン、コンガー金子夫人主筆

社會主義婦人雜誌

The Socialist Woman

IS a magazine that you must have. It is a magazine devoted to the cause of the Socialist women of the world. It is high time for our women to wake up and join their brother comrades in the overthrow of the present society with its multitudinous ills. The Socialist women must have at least one propaganda organ in which to express themselves, to get acquainted with each other, to organize firmly and strongly, and to fight the injustices that obstruct their way. *The Socialist Woman* is full of fire and militant spirit. *The Socialist Woman* is always alive and at the front.

Come, comrades, join us in our work, and prove to the world what women can do. *The Socialist Woman*, edited by Josephine Conger-Kaneko, is published monthly; price, 35 cents a year; for bundle of 100, 50 cents. Send in your subscription and order a bundle today for distribution. Address

The Socialist Woman, 619 E. 55th St., Chicago. U. S. A.

舶來乞食

此書は平民新聞に現はるゝや毀誉交々到り引ッ込めと叫ぶ奴あり高いと仰有る御仁ありお客様の御好みは区々作ら兎も角大に賣行したる事あるに就ては堅氣しからずや斯御願々として大に敷しき少べ浪花節を唸りつゝ廣告外記るて

製本書挾
價三千文
郵稅四百文

發兌元　東京市京橋區五郎兵衛町廿二　京華堂

各國語聖書、基督教書類
其他一切新刊書類確實販賣
東京神田區裏神保町二十五
振替貯金口座六三三〇番
中庸堂書店

●齒科治療 自午前八時 至午後六時●
神田區須田町廿六番地
齒科醫　吉瀨才一郎
勞働者諸君に限り藥價診察料共に御謝金夜間執業者の便利上夜間十時迄治療仕候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

於内外大博覽會受領

名譽金銀一等諸賞牌

體操及び運動器械

樂器及び教育品

日本東京市本郷區本郷五丁目

美滿津商店

（特電下谷八四五）

時代の要求により生れたるカメリヤは色白くきめを細かに艶を増し肌を滑かならしむる最新最良の洗粉なり年若き方々のみならず老年の御肌には殊に効驗著し

定價　大瓶廿五錢　瓶入十二錢　袋入五錢　小袋三錢

本舗　ライオン齒磨發賣元

東京神田柳原川岸　小林富次郎

婦人を美化する新寶典

村井弘齋先生著（最新版）全一冊頗る美本……

婦人の日常生活法

◎並製壹圓　上製壹圓廿錢　郵税上製拾貮錢　並製拾錢同

◎弦齋氏が廿年間大苦心の名著にして如何なる婦人をも美化するものは本書也

◎容貌を美にし動作を美にし言語を美にし姿勢を美にし應對を美にす

◎品を美にし健康を美にし家庭を美にし食物を美にし交際を美にし一生を美にす

◎妻の良人に愛せらる秘訣　娘の幸福なる結婚を得る秘訣　女學生の將來を愉快ならしむる秘訣本書悉く之を説明す

東京京橋區南紺屋町

實業之日本社

田口掬汀著（定價金參拾錢郵税四錢）

新刊　悲劇　熱血

此書は掬汀氏が伊井容峯一座の請ひを容れて特に執筆せられたる脚本なり、任俠の氣に富みて情趣深き一美人を中心とし幾多の悲慘なる葛藤を描く、劇の因つて生ずる事件は自由を求むる志士の運動にして特異の性格を具へたる人物の渦旋に投じ、相撃ち相抱く〳〵さま眞に一幅の畫圖を見るの感あらん、脚本缺乏の聲ある今日此書が劇壇の要求に副へる事言を俟たず、又單に讀物として見るも優れたる小説に等しき興味を與へん。

東京市本郷千駄木林町

發行所　日高有倫堂

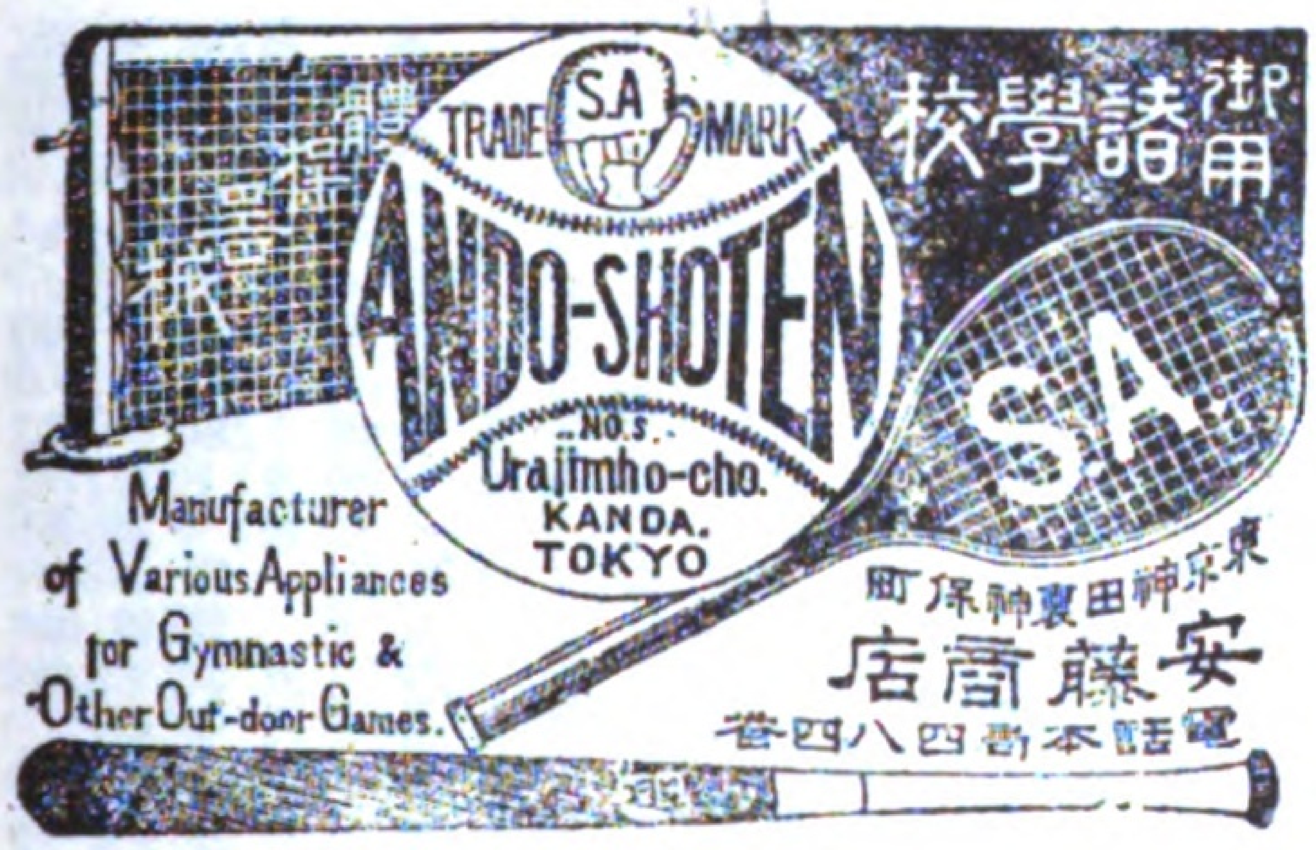
新築落成移轉

小兒科　内科　外科　病　診療

府下淀橋町角筈（水道前）

淀橋醫院

竹下繁太郎



大隈伯序　中村不折裝　梅澤和軒著

繪畫鑒賞法

菊版小包定價壹圓八拾錢
書四百八十三頁
挿畫入

東京神田

彩雲閣

振替口座　四一〇五

瓦斯引用の大御便利

燈火用（の瓦斯管）取付費用（材料共）總べて申受けざることに改め「ランプ」代は御自辨と

煮燒用　し一燈に付金九十錢以上御好の品を取付け可申又瓦斯

煖爐用　は御望に依り月賦にて最も割安に販賣可仕瓦斯竈、七輪、西洋料理器、湯沸器等便利を設け低廉の料金にて御貸渡可申上候　瓦斯煖爐は別に損料貸の

機關用　は「メートル」の位置迄の取附費用を申受けず又機關は御便利の爲め英國製最優等品を三ケ年迄の月賦にて最も割安に販賣可仕候

●御申込は電話はがき口頭にて本社又は出張所へ御通知次第係員出張可申候

神田錦町三丁目

東京瓦斯株式會社

◎定價　△一部四錢五厘、十部四十二錢、二十部八十錢

發行兼編輯人　神崎順一　東京府豐多摩郡淀橋町角筈七三八番地

印刷人　遠藤友四郎　東京府豐多摩郡淀橋町角筈七三八番地

發行所　世界婦人社　東京府豐多摩郡淀橋町角筈七三八番地

印刷所　東京市京橋區…二丁目廿一番地

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY